

世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト 2021 - コロナ禍における新たな取り組み ②

2016～2021年度 大学コンソーシアム八王子「学生企画事業補助金」対象事業

(公) 学術・文化・産業ネットワーク多摩 第7回「多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション」奨励賞受賞
多摩大学経営情報学部梅澤ホームゼミナール

菅原侑士（4年）、小池翼、松本壤弥、山口紗恵子（3年）、岩田柚菜、齋藤純白、徳永賢人、中村優貴（2年）

はじめに

本プロジェクト（以下、PJと省略）は、学生と八王子市高齢者あんしん相談センター旭町（以下、センターと省略）、八王子市民生委員・児童委員協議会第4地区民生委員（以下、民生委員と省略）・協力員、有志、八王子市社会福祉協議会が連携して誰もが参加出来る「駅前」という特徴を活かした高齢者サロンの運営を行うものである。私たちは2016年より4年間で36回のサロンを運営してきたが、COVID-19の影響で2020年1月を最後にサロンは休止となった。今回はコロナ禍における新規事業、①「駅前サロン通信」の発行と②オンラインによる高齢者サロンの仕組みづくり、オンラインによるサロンの再開についての成果と課題を報告するものである。

尚、これまでの活動については、2016～2020年度AL発表祭のレジュメをご参照頂きたい。

1. 「駅前サロン通信」の発行

2020年1月、対面によるサロンの休止が続く中、高齢者の方々の状況が心配になった私たちは皆様との繋がりを保つことを目的として「駅前サロン通信」を発行し始めた。夏は暑中見舞い、冬は新年のご挨拶の手紙を添え返信用葉書を通信に挟んでお届けし、読者の方と葉書で交流している（返信先は大学）。「サロンの再開を楽しみにしている。」という声を多数頂く一方、「外出自粛の影響で体調が悪化している。」「入院した。」といった健康状態の悪化も伺えた。



「駅前サロン通信」

2. オンライン駅前サロンの開発・企業との連携

コロナ禍において、従来通り若者と高齢者が密に交流する対面サロンの開催は当面難しいということになり、私達は大学で利用しているZoomを用いて大学と八王子の会場をオンラインで繋ぐ「オンラインサロン」を企画実施している。オンラインサロンを展開するためには、高齢者が安全に手軽に利用できる仕組みが必要である。そこで私たちは、高齢者にとって使いやすい機器・方法はないかと調べ、大学と包括連携協定を結んでいる城南

信用金庫に協力をお願いした。その結果、東日本電信電話株式会社、損害保険ジャパン株式会社と意見交換を、SOMPO ケア株式会社の介護施設にてオンラインアクティビティの実態についてヒアリング調査を実施することができた。介護現場の声を聞く中で、施設に入居する高齢者は要支援1から要介護5までの何れかの認定を受けており、身体的や精神的な障害をお持ちであることから、オンラインアクティビティの実施には、その環境整備や操作性の問題解決が課題であると感じた。一方、比較のお元気な方が入居しているサービス付き高齢者住宅の様な環境においては可能性が有ることが分かった。ソースネクスト株式会社には独自に交渉しオンライン会議専用機「MeePet」を用いた実証実験にご協力いただいた。

連携団体側は積極的に協力してくれ、ネット環境や機器を整えてくれた。2020年秋、連携団体と4回のリハーサルを重ね、改善しながら準備を進めた。2021年11月、緊急事態宣言が解除されたことから約2年ぶりにオンラインによるサロンを再開した。オンラインで「つながる」だけでなく「交流」することが重要であると考え、双方でコミュニケーションが取れるプログラム作りを目指した。開始当初のオンラインサロンは大学と八王子の2会場を繋いでいたが、その後、各家庭からでもサロンに参加できる仕組み作りで発展させた。11月のオンラインサロンの会場側では、町内で生活しながらも2年近く対面することがなかった高齢者同士、互いに再会を喜び、話しが弾んだ。オンラインサロンは現在も継続的に実施し、様々なプログラムを試行している段階である。引き続き企業と共に新たな問題の解決策を模索していく。

まとめ

高齢者にやさしいオンラインの仕組みづくりは、サロンに参加できない方々がご家庭から参加し社会とのつながりを築いていくことに展開できる。在宅高齢者と医療・福祉・介護を繋ぐことにも応用が可能である。今後も連携団体、企業にご協力を頂きながら、高齢者がいつでも・どこでもオンラインでつながり交流できる仕組みづくりとプログラムを追求していきたい。